



各 位

平成 22 年 2 月 19 日



デザインエクスチェンジ株式会社

代表取締役 森谷一彦

(コード番号 4794 東証マザーズ)

問合せ先：執行役員 前田雅弘

(TEL 03-5458-7038)

平成 21 年 12 月期の業績予想と実績の差異ならびに
営業外費用および特別損益の計上に関するお知らせ

平成 21 年 12 月期（平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）における、業績予想（平成 21 年 11 月 6 日開示）と本日発表の実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 12 月期業績予想と実績の差異

(1) 連結業績予想と実績の差異（平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	353	△ 574	△ 588	△ 591	△ 802.47
実績値 (B)	365	△ 488	△ 505	△ 1,545	△ 1,959.73
増減額 (B) - (A)	12	86	83	△ 954	△ 1,157.26
増減率 (%)	3.4	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成20年12月期)	802	△617	△560	△1,302	△4,228.03

(2) 個別業績予想と実績との差異 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	353	△ 573	△ 589	△ 654	△ 888.01
実績値 (B)	365	△ 487	△ 505	△ 1,671	△ 2,120.03
増減額 (B) - (A)	12	86	84	△ 1,017	△ 1,232.02
増減率 (%)	3.4	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成20年12月期)	775	△569	△515	△1,267	△4,114.37

2. 差異が生じた理由ならびに営業外費用および特別損益の計上
(連結実績)

当社は、平成 21 年 12 月期 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日) におきましても、前年度に引き続き世界的な経済環境悪化の影響を受け、国内企業の広告宣伝費の抑制基調はいまだ強まる傾向にあることから当社を取り巻く経営環境は一層の厳しさを増しましたが、平成 21 年 10 月 1 日より日本最大級の年賀状ポータルサイトである「おめでた満タン 2010」および取扱商品ラインを拡充したこと等により、売上高は前回予想を僅かながらではありますが上回りました。

営業利益および経常利益についても、急激な為替の変動に伴い外貨建債権債務の換算による為替差損 11,000 千円 (連結・個別) などが発生いたしました。固定費を中心とした費用の徹底した削減を行なった結果、前回予想値を上回りました。

当期純利益は、「企業会計基準第 10 号金融商品に関する会計基準」により、特定取引先に対する貸倒引当金の見積方法の見直しに伴い、平成 21 年 12 月期第 3 四半期会計期間に計上した貸倒引当金繰入額の戻し入れを行った結果、貸倒引当金戻入益 7,765 千円 (連結) を計上いたしました。

また、特別損失として平成 21 年 12 月期第 4 四半期会計期間において、本社移転に伴う固定資産除却損 18,926 千円 (連結・個別) を計上いたしました。

さらに、以下の資産および資産グループについて減損損失 1,119,480 千円 (連結・個別) を計上いたしました。

- ① 「千社貼札」自動印刷機は、既に全国各地に約 400 台設置し、今後は 1,000 台までの設置を目標とした営業展開を計画しておりましたが、個人消費の低迷から自動印刷機一台当りの売上高が低迷していることから、減損の兆候が把握されました。このことから、建設仮勘定となっている未設置分約 600 台相当の帳簿価額 202,331 千円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

② 当社は、コンテンツ事業の推進を目的として故黒澤明監督が執筆した全脚本の 50% の著作権を保有しており、平成 22 年の故黒澤明監督生誕 100 年祭に合わせ、それら脚本の映画化及びリメイク化等の協議を関係各社と行い収益獲得を目指しております。

しかし、昨年来の世界的な経済悪化の影響を受けたこと、さらに、収益獲得のための助走期間でもあったことから、多額の収益計上には至りませんでした。

これらの現状を踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」を保守的に勘案し、著作権の帳簿価額の 50%相当額を減額し、当該減少額 857,142 千円を減損損失として特別損失に計上いたします。

以上により、当期純利益は前回予想値より大幅に下回り△1,545 百万円となりました。

(個別実績)

個別実績の差異理由についても連結実績と同様ですが、当期純利益については、連結子会社の特別利益金額を織り込まないため、連結実績より下回り△1,671 百万円となりました。

以 上